

## 職業奉仕について私が思うこと

ロータリー、ローターアクトの奉仕活動の中に「職業奉仕」という分野があるが、私は「職業奉仕」について今まで深く考えてみたことがなかった。1月17日のウィンター交流会で、「職業奉仕」についての伊藤三之パストガバナーの講演、その後のグループワークを通して、あらためて考える機会に恵まれた。

「職業奉仕」と聞いて、私がこれまで漠然と考えていたのは、自分が生業としている職業を活かした奉仕活動を行うことや、それに関連した卓話を行うというものだった。しかし、伊藤三之パストガバナーの話はそれに限定したものではなく、自分の体験をもとに、自分の職業を思い描きながら、「顧客満足度の最重視」や「職業倫理」などについて、広く柔軟に考えてみようというものだった。

グループワークの中で、私は自分の体験をもとにした職業奉仕についてうまく話すことはできなかったが、同じグループの地区ローターアクト委員会の本間委員長のお話や同じローターアクトの齋藤さんや西村さんの体験談を聞いて、どんな仕事においてもプロ意識を持って丁寧に行うことが大事であり、それが利益だけでなく、人と人とのつながりの活性化につながっていくのかなあ、と感じた。

私は普段病院の内視鏡室で看護補助者として働いている。看護補助は病院において患者さんの身の周りの世話や環境整備を行う職種である。普段一人で歩くことができない患者さんを見守りながら車椅子でのトイレ移動、介助を行うこともある。こういった普段自分がやっている仕事を丁寧に、プロ意識を持って行うことが大事だということ、つまり、日常の仕事の中で、スタッフが顧客に対して思いやりの心を持って丁寧に対応することこそが、「職業奉仕」の本質なのでないだろうか、と思った。私はこれまで、日々の業務の忙しさのせいか、仕事を何事のトラブルもないようにこなすことが精一杯で、顧客に対する思いやり、病院でいえば、患者さんへの思いやりの心を忘れてしまっていたような気がした。しかし、今回の交流会での職業奉仕の話を機に、これからは、「患者さんへの思いやり」を意識しながら仕事に臨もうと思う。技術や専門知識云々ばかりでなく、一人のスタッフとして思いやりの心を持って患者さんに接することが、自分が務める病院の信頼にもつながっていくはずだ。

職業奉仕は、自分の日々の仕事の中にあるもので、そこに正解不正解もない。大事なことは、プロ意識を持って仕事を行うこと、思いやりの心を持って丁寧に仕事を行うことで顧客に対し満足感を提供できるのだ。

日々の忙しさの中で気づけていなかったけど、「職業奉仕」は目の前にあった。ローターアクトで行うことだけが「奉仕」ではなかったことに気づけた。